

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 92人

② 算数 92人

5 留意事項

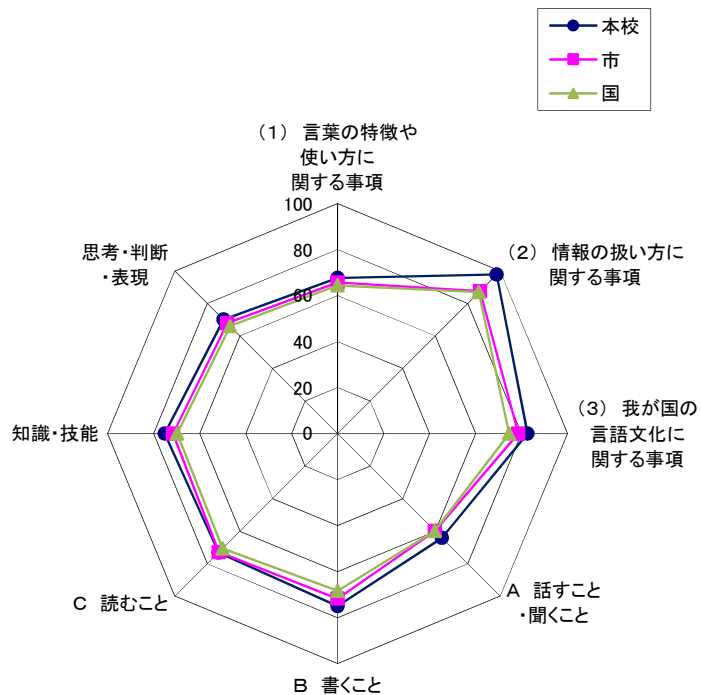
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	97.8	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.6	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	64.1	59.9	59.8
	B 書くこと	75.0	71.8	68.4
	C 読むこと	73.2	72.9	70.7
	観点	知識・技能	75.2	71.5
	思考・判断・表現	70.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

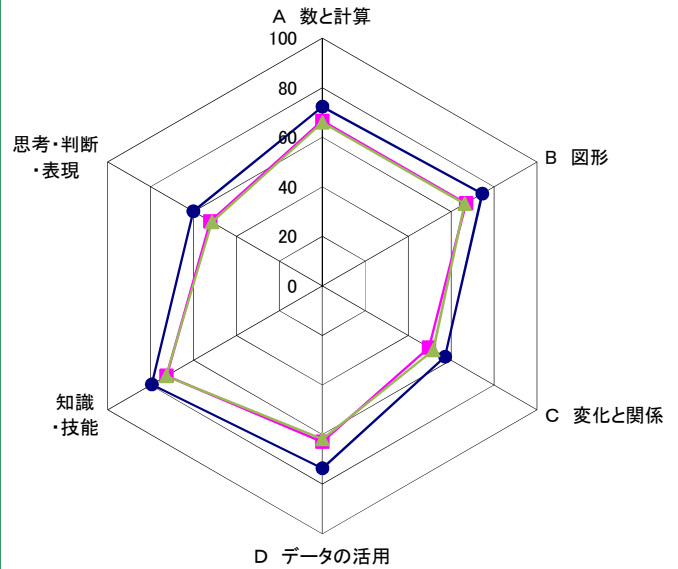
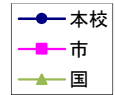
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	領域の平均正答率は67.7%であり、全国平均より3.3ポイント上回っている。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項においては、全ての問題において正答率が全国平均よりも上回った。特に文章の中における主語と述語との関係を捉える問題においては、平均正答率が68.5%と、全国平均より6.2ポイント上回った。	・全国平均を上回っているので、漢字の読み書き練習を引き続き繰り返し、更なる定着を図る。話し言葉と書き言葉との違いや敬語の使い方等の日常的な指導においても継続指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は97.8%であり、全国平均より10.9ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問では、10.9ポイント上回った。	・全国平均を上回っているので、情報と情報の関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解させるために、国語はもちろん他教科との関連を図りながら、継続的に指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	領域の平均正答率は82.6%であり、全国平均より8ポイント上回っている。 ○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる問題で8ポイント上回った。	・全国平均を上回っているため、今後も日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせるような指導をしていく。
A 話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は64.1%であり、全国平均より4.3ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問では、平均正答率が72.8%で、10.3ポイント上回った。	・全国平均を上回っているため、目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめられるよう、話し手の意図を聞き取ったり、自分の考えを話したりする機会を増やし、話すこと・聞くことへの指導の充実を更に図る。
B 書くこと	領域の平均正答率は75.0%であり、全国平均より6.6ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が88%で、全国平均を7.7ポイント上回った。	・全国平均を上回っているため、今後も、他者と自分の意見を比べながら文章に書いたり、字数制限の中で簡潔にまとめたりするなど、条件に合わせて文章を書く活動を設定し、その機会を増やしていくことで更なる定着を図る。
C 読むこと	領域の平均正答率は73.2%であり、全国平均より2.5ポイント上回っている。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる設問では、平均正答率が79.3%で、全国平均を6.7ポイント上回った。	・文章に書かれている内容として適切なものを選ぶ問題はよくできているので、今後も読書の推進を図り、様々なジャンルの本に親しむような環境づくりに努める。 ・読み取ったことを基に自分の考えをまとめるという問題で、無回答が12ポイントであり、選択問題よりも割合が高かった。今後も文章の大切な言葉を捉え、簡潔にまとめる機会を設け指導していく。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.3	66.7	66.0
	B 図形	74.5	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	57.2	49.6	51.7
	D データの活用	73.6	62.9	61.8
観点	知識・技能	79.5	72.6	72.8
	思考・判断・表現	60.2	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>領域の平均正答率は72.3%と全国平均を6.3ポイント上回った。</p> <p>○数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかを問う設問では、平均正答率が92.4%と、全国平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかを問う設問では、全国平均を10.5ポイント上回っているものの、平均正答率は67.4%と低かった。</p>	<p>・乗法の計算の仕方を理解するだけでなく、何を1として見たときの計算なのか、自分の考え方を言葉や文章で説明する活動を学習の中に設けることで、計算の意味を考える力を高められるような指導の充実を図る。</p>
B 図形	<p>領域の平均正答率は74.5%と全国平均を8.2ポイント上回った。</p> <p>○直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかを問う設問では、平均正答率が92.4%と、全国平均を6.9ポイント上回った。</p> <p>●球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかを問う設問では、全国平均を10.2ポイント上回ったものの、平均正答率は46.7%と低かった。</p>	<p>・図形を構成する要素についての理解に課題が見られたため、具体物を用いながら実感をもって理解できるようにしていく。また、異なる性質をもつ複数の立体を比較し、縦、横、高さを類推できる活用力を高められるような指導の充実を図る。</p>
C 変化と関係	<p>領域の平均正答率は57.2%と全国平均を5.5ポイント上回った。</p> <p>○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかを問う設問では、平均正答率が73.9%と、全国平均を3.9ポイント上回った。</p> <p>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問では、全国平均を6ポイント上回ったものの、平均正答率は37%と低かった。</p>	<p>・速さなどの単位量あたりの大きさを求める活動では、何を1としてみるのか、基にする数値は何なのかを明らかにして考えられるようにしていく。また、速さを、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉えると、時間が短いほど速いという基本的な考え方を確認し、日常生活と結び付けながら説明する活動を取り入れ、理解を深められるような指導の充実を図る。</p>
D データの活用	<p>領域の平均正答率は73.6%と全国平均を11.8ポイント上回った。</p> <p>○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかを問う設問では、平均正答率が91.3%と、全国平均を10.5ポイント上回った。</p> <p>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかを問う設問では、全国平均を13.6ポイント上回ったものの、平均正答率は57.6%と低かった。</p>	<p>・折れ線グラフの特徴や用い方の内容では、日常の事象の結果を活用しグラフにまとめることを通して、日常生活と算数の学習を結び付け、他教科での資料の読取り等で実践的に理解できるようにしていく。</p> <p>・複数の折れ線グラフを読み取る活動では、それぞれのグラフが何を表しているのか、縦軸、横軸の単位は何なのかを丁寧に確認し、読み取れるようにしていく。また、二つのグラフを比較する活動では、縦軸の目盛りの読み取りや間隔、変化の大きさに注目し、言葉や数値を用いて説明する活動の充実を図る。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」の質問について
2時間より少ないと答えた児童の割合は61.3%で、全国平均より10.5ポイント上回っている。このことは、学級活動をはじめとする様々な学習活動を通して、デジタル機器の使い方に関する指導や外部講師を招いての指導を行ったり、生活習慣育成への家庭での協力が得られたりしたことによる成果であると考えられる。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問について
肯定的回答率は94.6%で、全国平均より10.5ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対する肯定的回答率は98.9%で、全国平均より9.7ポイント上回っている。これは、一人一人を大切にしている学級づくりやさわやか岡西賞等の児童を認め励ます指導によって児童の自己肯定感が育ってきている結果と思われる。今後も学校内だけでなく、家庭と連携を取りながら児童に励ましの言葉をかけ、前向きに目標に向かって生活していけるよう支援をしていきたい。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問について
肯定的回答率は94.7%で、全国平均より11.2ポイント上回っている。高学年として学校のために活動する機会が多く、日頃から勤労奉仕の喜びや大切さを感じていることが根底にあるのではないかと考える。今後も、実生活だけでなく、道徳やキャリア教育を通して、地域や社会をよくするために行動していこうとする意欲を育てていきたい。

○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどのくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる」の質問について
肯定的回答率は91.4%で、全国平均より4.3ポイント上回っており、中でも「とてもそう思う」と回答した児童の割合は60.2%で、全国平均より14ポイント上回っている。これは、協働的な学びを充実させるための一人一台端末の効果的な活用方法を様々な授業に取り入れて指導してきた効果が現れたものと思われる。今後も引き続き、学習課題に合わせたICT機器のより効果的な利用方法を考え指導に生かしていきたい。

○各教科の勉強は好きかたずねる質問について
肯定的回答率は国・算・理・英全ての教科で全国平均を上回っている。今後とも学ぶことの楽しさを感じることができるような授業展開を工夫していきたい。

●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」の質問について
1時間より少ないと答えた児童の割合は62.3%で、全国平均より11ポイント上回っている。すこやか河内中学校園共通の高学年の家庭学習時間の目安は1時間とされているが、休日には6割以上の児童がこの学習時間を満たしていない。スポーツクラブ等の活動や家庭の事情で忙しいことも考えられるが、確実な学力を身に着けるため、今後更なる意識付けを図っていきたい。

宇都宮市立岡本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
豊かに表現する児童の育成	児童個々の学びが対話的な学びにつながる言語活動の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	○「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」について 肯定的回答率が69.9%県・全国平均を上回った。 ○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」について 肯定的回答率が93.6%で県・全国平均を大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科の誤答及び無回答率、質問紙の結果から、「自分の考えを言葉で表現すること」に課題を抱えている児童が、全体の30%程度いることが明らかになった。この課題の要因として、以下の2点が考えられる。 ①自分の考えをもつことに苦手がある。（思考力・判断力） ②自分の考えを表現することに苦手がある。（表現力）	思考を促す活動や表現の機会を確保した授業の展開。	「自分の考えを言葉で表現すること」の課題解決に向け、以下の2点の取組を行う。 ①自分の考えをもつことができる児童の育成 ・グループ学習での意見交換を通して、多様な考え方に触れ、自分の考えを深める学習活動を展開する。 ・思考がより深められていくように「なぜ？」「どうして？」といった開かれた発問をしたり、答えを一つに決めつけるのではなく、多様な考え方を引き出したりする指導を実践する。 ②自分の考えを表現できる児童の育成 ・主に国語の授業において、説明文や物語文を読み解き、文章構造や登場人物の心情を分析する活動を行う。また、自分の考えを相手に伝わるように、文章構成や言葉遣いを意識した作文活動、意見交換を通して、異なる視点や考え方を理解し、自分の考えを整理する活動等を行う。 ・思考の仕方を可視化するモデルを示すことで、児童の理解を助ける。 ・読書活動を推進し、語彙力や表現力を豊かにする。